

2011年10月22日(日)
「ふくしまキッズ夏季林間学校」報告会を行いました(福島)



福島報告会 委員長進士徹

磐梯国際スキー場のホールをお借りして、「ふくしまキッズ夏季林間学校」の福島での報告会を行いました。参加者は約110人、家庭数は32。懐かしい子どもの笑顔と元気に再会出来ました。嬉しかったと同時に、放射線の心配と隣りあわせで毎日生活していることを思うと、子ども達はよくがんばっているなあと、またまた涙がこみ上げてきました。

全体の雰囲気は、夏休みに北海道で思いきり活動できた事への感謝の心が伝わった感じで、7月の事前説明会では開催する我々の存在が不透明な部分もあり、保護者のみなさんには不安感がありましたが、今回は違いました。子ども達も夏に関わった学生ボランティアとの再会に喜んでいました。

今回の報告会にはゲストとして前文部科学省副大臣の鈴木寛さんや支援委員の寺脇さん、玄侑さんにも参加いただけました。また、北海道から流山活動センターの菊池さんやナツ君にもお出でいただけました。

福島での報告会には後藤さんが編集してくれた40分にわたる映像記録が放映され、それを見ながらの昼食でした。映し出されるDVDの映像を見てお父さんやお母さんに子ども達が各地の活動のようすを説明していました。

そして、活動全体の報告が実行委員会の副委員長の吉田さんからあり、その後に約6分にまとめられた「ふくしまキッズ夏季林間学校」映像作品の上映。保護者の方々の涙は当然ですが、鈴木さんも涙を浮かべておられました。

主催：福島の子どもを守るプログラム実行委員会

協力：NPO あぶくまエヌエスネット・NPO 教育支援協会・NPO ねおす NPO 教育支援協会北海道・NPO スタニティ
NPO 放課後アフタースクール NPO 夢職人・北海道旅客鉄道株式会社・北海道・北海道教育委員会・七飯町・北海道公民館協会
北海道教育大学・横浜市・横浜子ども支援協議会・NPO 楠木学園・愛媛県・新居浜市・今治市・日本財団 CANPAN センター

2011年10月22日(日) 「ふくしまキッズ夏季林間学校」報告会を行いました(福島)

休憩を挟んでお父さん、お母さん達とこれからの冬休み、春休みをどうするか、来年の夏休みの取り組み方などについて意見交換をグループワーク形式で「熟議」を行いました。ファシリテーターは東京からの学生ボランティアが引き受けてくれて、残った学生諸君は子どもたちと遊びタイム、張り切ってくれました。



「熟議」からの親の感想、意見、要望（集約しています。）

☆ 夏の活動から感想

- ・ 何も気にせず思いきり外で活動が出来て良かった。
- ・ 子どもが成長した。
- ・ 子どもからの手紙は良かった
- ・ ブログでの活動報告は良かった。
- ・ 新鮮な野菜などいただけました。
- ・ 旅に行けて良かった。
- ・ 子どもたちにとってホームステイはとっても良い経験になった。
- ・ カヌー、ラフティング、ツリークライミングなど、親では用意できない活動がたくさんあった。
- ・ 長期だったので帰って来てから自信の責任感が強くなった。
- ・ あいさつがしっかり出来るようになった。
- ・ 北海道に愛着が持てた。

など、いろいろな成果が挙げられたが、だからこそ福島に帰って来てのギャップで子どもが可哀想という感想がありました。確かに切実な問題です。

☆ 改善点

- ・ 生活時間帯のメリハリを明確にして欲しい。
- ・ 濃厚プログラムではなく、生活重視でよい。
- ・ 学習時間足りない、夏休みの宿題が残って帰って来た。
- ・ 洗濯時間も確保して欲しかった。洗濯機で全てやって欲しい。
- ・ 食事の問題があった。プリンスホテルの場合のバイキングスタイルの朝食は好きなものだけ食べるという問題があり、夕食はワンパターンで、食事指導、栄養バランスなど考慮して欲しい。
- ・ 定食型が良い。
- ・ 予定が変更になり、その連絡がしっかりと出来ていなかったため、我が子が北海道のどの場所で、今日は何の活動をするか、詳細が分からなかった。
- ・ 部屋、子どもの活動班などで縦割りの形があっても良かった。
- ・ 兄弟別の場所は不安だった。

この指摘は実行委員会の総括とほとんど重なっており、来年度に向けて検討していかなくてはならない問題です

主催：福島の子どもを守るプログラム実行委員会

協力：NPO あぶくまエヌエスネット・NPO 教育支援協会・NPO ねおす NPO 教育支援協会北海道・NPO スタニティ
NPO 放課後アフタースクール NPO 夢職人・北海道旅客鉄道株式会社・北海道・北海道教育委員会・七飯町・北海道公民館協会
北海道教育大学・横浜市・横浜子ども支援協議会・NPO 楠木学園・愛媛県・新居浜市・今治市・日本財団 CANPAN センター

2011年10月22日(日) 「ふくしまキッズ夏季林間学校」報告会を行いました(福島)

☆ 今後の要望

- ・ 放射線値が低ければ近場でも開催して欲しい。
- ・ 移動時間がかかりすぎる。
- ・ 運動量が不足しているためスポーツ、ミニ運動会的な事が出来たら。
- ・ スポーツ選手とのふれあいがあればさらに元気が出る。
- ・ 受入地での郷土料理、歴史文化に触れる事ができたらうれしい。
- ・ とにかくゆったり生活重視のプログラムにしてほしい
- ・ 参加条件が小学生からというのを姉、兄が居る場合は幼児も認めて欲しい。
- ・ リーダーに長くいて欲しいので学生ボランティアを有償で募集してほしい。
- ・ 参加説明会は、親と子どもと分けて説明
- ・ なんとでも継続して欲しい
- ・ 中学生、受験生向けの内容もお願いしたい。
- ・ お母さん目線でのケアが必要

話し合いを熱心にお聞きいただいた鈴木さんからは、「ふくしまキッズ夏季林間学校でできた絆は大切にしてほしい。こうした関係が我々の社会で最も大切になっている」「私はふくしまキッズを応援していきます。ぜひお仲間の一人として支援させていただきたい。」「今、創造的復興教育という考え方を提唱していますが、今日、保護者の方々と話せたことでその方針に確信が持てました。今後日本の舵取りはこの方向だと。」と熱く語っていただきました。

寺脇さんも「子どもの時に思う存分様々な体験をすることが重要で、そうした教育のあり方をふくしまキッズが種を蒔き、そしてその芽を育み伸ばしてゆく。それを応援していきたいので、ぜひ保護者の方々も力を合わせてほしい。福島の保護者がまず日本の先頭を走ってもらいたい。」と「創造的復興教育」の方向に向けた活動を提案していただきました。

玄侑さんも、ふるさとを守るという視点から、放射能とどう向き合うのか、「正しく恐れる」という大切な話をしていただきました。そして、「私は夏の色々な活動を見ましたが、反省会や報告をしっかりとやっているのはこの『ふくしまキッズ夏季林間学校』だけ。支援委員になって良かったと思います。」と仰っていただきました。ぼんた学長は、胸が熱くなりました。

ふくしまキッズのはじめの一步、これは正しかったと今日確信しました。そして、今日の福島報告会はふくしまキッズとの再会、そしてこれからを考えるよい機会となったことをご報告させていただきます。

主催：福島の子どもを守るプログラム実行委員会

協力：NPO あぶくまエヌエスネット・NPO 教育支援協会・NPO ねおす NPO 教育支援協会北海道・NPO スタニティ
NPO 放課後アフタースクール NPO 夢職人・北海道旅客鉄道株式会社・北海道・北海道教育委員会・七飯町・北海道公民館協会
北海道教育大学・横浜市・横浜子ども支援協議会・NPO 楠木学園・愛媛県・新居浜市・今治市・日本財団 CANPAN センター